



中国・石林风景区 (解説p.13)



雲南石林

(写真：中国／雲南 帝国書院 2007年8月撮影)

中国西南、雲南（ユンナン）・貴州（コイチョウ）・広西（コワンシー）の各地には、古生代から中生代にかけて形成された石灰岩層が広範囲に分布し、多彩なカルスト地形（中国語では岩溶、または音訳で喀斯特という）が発達している。平野部では、桂林（コイリン）の漓江（リーチャン）周辺のように、塔状にそびえる岩峰が重畳と並び、その間を河川が蛇行する、墨絵の世界を髣髴させる景観を呈し、高原上では露出した石灰岩層の溶食がすすみ、溶解せずに残った石塊（日本ではピナクルとよんでいる）が林立する。中国ではこれを石林と称する。また地下には大規模な鍾乳洞が発達し、地表には溶食陥没によるドリーネが分布している。

中国各地にある石林の中でも、とくに有名なものは、写真にみる雲南の省都、昆明（クンミン）から東に120km余のところにある路南石林である。ここには海拔1700～2000mの間、約400km²にわたり、多様なカルスト景観がみられ、2004年にユネスコの世界地質公園に、2007年に、貴州の荔波、重慶の武隆とともに「中国南方カルスト」として世界自然遺産に登録された。

写真の手前の窪地はドリーネであり、その向こ

うには無数のピナクルが林立するのがみえる。高温多湿な亜熱帯気候を反映し、温帯のカルスト地域に比べて植生が発達しているため、地表の微地形はよくわからないが、全体として起伏に富んだ雲貴高原らしいカルスト地形がよくあらわれている。このような地形条件と、貧困な土壌成分のため、高原上の農業はあまり発達していない。この地方には古くから「地に三里の平地なく、天に三日の晴天なく、人に三両の銀なし」ということわざがあるほどである。

ここは以前、路南彝（イ）族自治州（曲靖専区）とよばれていたが、1984年から昆明市に属し、1998年に石林彝族自治州と改名された。彝族自治州という名称でわかるように、23.7万の人口のうち彝族が8万人を占めており（2006年現在）、主として山地で遊牧や雑穀栽培などの農業に従事している。河谷や大規模な窪地では漢族が水稻栽培やタバコ栽培をおこなっており、両者の経済格差は大きかった。しかし最近は少数民族文化も取り込んだ観光開発が進み、地域への経済効果も大きい。

（滋賀大学教育学部長 秋山元秀）